



2019年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年8月14日

上場会社名 株式会社和心 上場取引所 東
 コード番号 9271 URL https://www.wagokoro.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 森 智宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 宮原 優 TEL 050-5243-3871
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第2四半期の業績（2019年1月1日～2019年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第2四半期	1,488	17.4	△6	△113.6	△2	△108.3	△1	△109.6
2018年12月期第2四半期	1,267	—	47	—	32	—	19	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第2四半期	△0.67	—
2018年12月期第2四半期	7.53	7.34

- (注) 1. 2019年12月期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。
 2. 当社株式は、2018年3月29日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しており、2018年12月期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新規上場日から2018年12月期第2四半期累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第2四半期	1,908	1,179	61.8
2018年12月期	1,872	1,178	62.9

(参考) 自己資本 2019年12月期第2四半期 1,179百万円 2018年12月期 1,177百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年12月期	—	0.00	—	—	—
2019年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年12月期の業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,204	17.4	△56	—	△47	—	△65	—	△23.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期2 Q	2,818,700株	2018年12月期	2,816,300株
② 期末自己株式数	2019年12月期2 Q	－株	2018年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期2 Q	2,817,454株	2018年12月期2 Q	2,640,342株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明会資料の入手方法）当社は、2019年8月29日（木）に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦を端緒とする世界規模の貿易停滞の拡大と、政治体制の混迷に起因する多国間経済連携の混乱という、世界的な政治経済構造の揺らぎを受け、消費、投資ともに実質的な減速が続きました。

当社を取り巻く経営環境においても、有効求人倍率の良化や失業率の低下等、消費向上に資する経済指標がある一方、世界経済への懸念や少子高齢化と老後の不安で国内消費者の消費意欲は旺盛とは言えません。2020東京オリンピックを控えているとはいえ、戦後最悪と言われる日韓関係の冷え込みや円高の影響を受け、訪日外国人観光客についても人数の伸びも一人当たり消費額の増加も楽観を許しません。また、慢性的な労働者不足は、人件費の高騰や採用費用の増加、営業機会損失やノウハウ継承不足を産み、さらにはAIやRPAの自動化等の新たな投資を要求しています。

このような経済環境の下、当社は「日本のカルチャーを世界へ」を経営理念に、「日本文化を感じるモノを作り販売する」モノ事業と「日本文化の良さを体験してもらう」コト事業の2つの事業の強化に引き続き取り組みました。

その結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高1,488,148千円(前年同期比220,258千円増加)、営業損失6,500千円(前年同期は47,830千円の利益)、経常損失2,739千円(前年同期は32,921千円の利益)、四半期純損失は1,900千円(前年同期は19,876千円の利益)となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(モノ事業)

モノ事業においては、当第2四半期累計期間に〔かんざし屋wargo〕、〔箸や万作〕、〔北斎グラフィック〕の業態についてそれぞれ新規出店を行いました。また、業態を超えた複合店舗「THE ICHI」もゴールデンウィーク前の四月末に長野県軽井沢町の旧軽銀座に出店いたしました。

当第2四半期累計期間の出店は9店舗、業態変更による増加が1店舗、一方、同期間の閉店が2店舗、業態変更による減少が1店舗あり、当第2四半期末の店舗数は75店舗となりました。

OEM事業においては、既存顧客からの受注に加え、新規顧客の開拓を積極的行いました。また、当社運営のECサイトにおける当社ブランド及びゲームやアニメのほかキャラクターとコラボした製品の販売が順調に推移しました。

その結果、モノ事業の売上高は1,093,895千円(前年同期比205,669千円増加)、セグメント利益は161,440千円(前年同期比12,072千円増加)となりました。

(コト事業)

コト事業においては、従来までの観光地を中心とした着物レンタルに加え、都市部を中心に冠婚葬祭用の上級着物レンタル店の展開に注力しました。当第2四半期累計期間の出店は1店舗、一方同期間の閉店が2店舗あったため、当第2四半期末の店舗数は18店舗となりました。

その結果、コト事業の売上高は394,252千円(前年同期比14,588千円増加)、セグメント利益は43,214千円(前年同期比44,644千円減少)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて238,040千円減少し959,897千円となりました。これは現金及び預金が増加したことで270,705千円減少、商品が54,150千円減少、預け金等のその他流動資産が87,504千円増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて274,869千円増加し947,032千円となりました。これは新店舗に係る敷金が増加したことで25,050千円増加したこと、投資有価証券等の投資その他資産が160,787千円増加したことなどによります。

繰延資産は、前事業年度末に比べて517千円減少し1,618千円となりました。

その結果、資産合計は、前事業年度末に比べて36,311千円増加し1,908,548千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて85,982千円増加し458,966千円となりました。これは買掛金が増加したことで28,880千円増加したこと、未払金が増加したことで25,794千円増加したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて50,666千円減少し270,280千円となりました。これは長期借入金が増加したことで50,388千円増加したことなどによります。

その結果、負債合計は、前事業年度末に比べて35,315千円増加し729,247千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて995千円増加し1,179,301千円となりました。これは利益剰余金が1,900千円減少したものの、その他有価証券評価差額金の増加2,776千円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2019年2月14日に公表しました2019年12月期通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、2019年8月14日に公表いたしました「2019年12月期第2四半期（累計）業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	670,815	400,109
売掛金	146,024	145,335
商品	292,616	238,466
その他	88,481	175,986
流動資産合計	1,197,938	959,897
固定資産		
有形固定資産	200,277	259,846
無形固定資産	98,072	127,535
投資その他の資産		
敷金	260,900	285,951
その他	112,911	273,699
投資その他の資産	373,812	559,650
固定資産合計	672,163	947,032
繰延資産	2,135	1,618
資産合計	1,872,237	1,908,548
負債の部		
流動負債		
買掛金	43,828	72,708
1年内返済予定の長期借入金	106,776	103,776
未払金	172,952	198,746
未払法人税等	-	9,827
賞与引当金	6,220	9,052
その他	43,205	64,854
流動負債合計	372,983	458,966
固定負債		
長期借入金	320,576	270,188
その他	371	92
固定負債合計	320,947	270,280
負債合計	693,931	729,247
純資産の部		
株主資本		
資本金	439,019	439,079
資本剰余金	410,489	410,549
利益剰余金	328,969	327,068
株主資本合計	1,178,478	1,176,697
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△172	2,604
評価・換算差額等合計	△172	2,604
純資産合計	1,178,305	1,179,301
負債純資産合計	1,872,237	1,908,548

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
売上高	1,267,889	1,488,148
売上原価	235,720	316,200
売上総利益	1,032,169	1,171,948
販売費及び一般管理費	984,339	1,178,448
営業利益又は営業損失(△)	47,830	△6,500
営業外収益		
受取利息	2	94
受取手数料	144	1,613
投資有価証券売却益	-	152
助成金収入	-	1,710
補助金収入	-	1,181
その他	570	837
営業外収益合計	717	5,589
営業外費用		
支払利息	604	459
株式公開費用	13,699	-
為替差損	191	751
株式交付費償却	341	517
その他	790	99
営業外費用合計	15,626	1,828
経常利益又は経常損失(△)	32,921	△2,739
特別損失		
固定資産除却損	337	-
特別損失合計	337	-
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	32,584	△2,739
法人税等	12,708	△838
四半期純利益又は四半期純損失(△)	19,876	△1,900

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益計算 書計上額(注2)
	モノ事業	コト事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	888,225	379,663	1,267,889	1,267,889	—	1,267,889
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	888,225	379,663	1,267,889	1,267,889	—	1,267,889
セグメント利益	149,367	87,858	237,226	237,226	△189,395	47,830

(注) 1. 調整額△189,395千円は、本社管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益計算 書計上額(注2)
	モノ事業	コト事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,093,895	394,252	1,488,148	1,488,148	—	1,488,148
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,093,895	394,252	1,488,148	1,488,148	—	1,488,148
セグメント利益	161,440	43,214	204,654	204,654	△211,154	△6,500

(注) 1. 調整額△211,154千円は、本社管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。